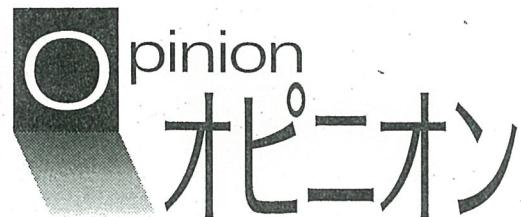


### オピニオン「オープンカレッジ」

## 外国語学部長柳善和教授の「小学校英語教育の教科化 ～教員の質向上と環境整備が課題に～」掲載

●中部經濟新聞 2016年9月14日(水)



やなぎ よしかず 英語教育  
学、応用言語学。広島大学大学  
院教育学研究科博士前期課程修  
了。教育学修士。1959年生  
まれ。



名古屋学院大学  
外国語学部教授  
柳 善

## 教員の質向上と 環境整備が課題に

なでしる 現在の学習指導要領では、「外国語活動」は教科としては扱われておらず、従つて、文部科学省

かしさを感じる前に音声言語の基礎を学習して、その後に「読むこと」「書くこと」を含めた全般的な英語学習を行うことでバランスの取れた英語能力を養成しようということである。

もう一つは、グローバル化の進展に伴って英語能力が必要とされる時に、より確実に英語能力の向上を図りたいという思惑がある。現在大学生は就活の一環としてTOEICなどの得点向上に努めているが、本来

一方で担任教員もやはり英語の授業を担当することにあるので、小学校教員全員に対し英語能力の向上、英語の指導技術の修得が必要になる。さらに、これは英語教育に限らないが、次世代のためによりよい教育環境を整えること、とりわけ教室の教育機器（電子黒板、教室に備え付けのプロジェクター、スクリーンなど）の整備に引き続き努めるべきであろう。

現在小学校では「外国語活動」という名称で英語教育が5年生から必修として週1時間教えられている。「外国語活動」は主に「聞く」と「話す」と「読む」と「書く」を中心として、「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させながら、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションの素地を養う」ことを目的にしている。基本的に「読むこと」「書くこと」は中学校から教えることにな

## 小学校英語教育の教科化

る「外国語活動」にあたる部分を3年生から始め、5年生からは「教科」として英語を教える準備が進んでいる。時間割では3～4年生は週1時間、5～6年生は週2時間を想定している。

小学校で英語教育を充実させることにはいくつかの理由がある。一つは、日本学習者が苦手とされる「聞くこと」「話すこと」という音声言語については、思春期以前の方が学習が進みやすいことがある。不慣らしさなる向上を目指すこと必要であろうが)それだけ世界の同世代に後れを取ることになる。すでに韓国・中国など東アジア諸国では小学校への英語教育の導入をこれまで積極的に進めってきたことも考慮すべきであろう。

小学校英語教育の「教科化」について考えられる課題としては、まず、現職教員の研修および教員養成課程での教育の充実が求められる。次期学習指導要領の実施に当たっては、小学校英語教育に専科教員(英語

が作成した補助教材はあるが、具体的に何を教えるかが各学校の采配に任されている。

さて、次期学習指導要領では、現在の学生から将来の若者と競い合わなくてはならないはずである。大学生は自分の専門領域の学問・知識で世界の同世代の若者と競い合わなくてはならないはずである。大学

オープン  
カレッジ